



◎理事會

七月二十九日正午丸ノ内日本俱樂部に於て開會出席者は水野會長山田理事寛理事中川(正左)理事牧理事佐藤理事の外石井幹事其他五幹事、會長議長席につき開會附議事項第八回國際道路會議附設展覽會經費不足金を本會々計より支出の件を可決午後二時散會。

◎内務省分課規程中改正

内務省に於ては八月十二日分課規程中左の通改正を加へられた。

土木局の部中第一技術課ヲ左ノ如ク改ム

第一技術課

- 一 本省直轄土木工事(道路工事及砂防工事ヲ除ク)ノ企畫ニ關スル事項
- 一 河水統制ノ調査並計畫ノ技術ニ關スル事項
- 一 上水道下水道工事ノ技術ニ關スル事項
- 一 水力工事ノ技術ニ關スル事項

第二技術課

- 一 本省直轄道路工事ノ企畫ニ關スル事項
- 一 國庫補助災害土木工事ノ技術ニ關スル事項
- 一 地方經營土木工事(砂防工事ヲ除ク)ノ技術ニ關スル事項
- 一 他課ノ主管ニ屬セサル土木工事ノ技術ニ關スル事項

項

土木局ノ部中第二技術課ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第三技術課

- 一 本省直轄砂防工事ノ企畫ニ關スル事項
- 一 地方經營砂防工事ノ技術ニ關スル事項

◎交通事業調整委員及幹事

八月三日左の通發表せらる。

内閣書記官長	風見章
法制局長官	船田中
企畫院次長	青木一男
内務政務次官	勝田永吉
内務次官	館哲二
大藏次官	石渡莊太郎
陸軍次官	東條英機
遞信次官	小野猛
鐵道政務次官	田尻生五
鐵道次官	喜安健次郎
貴族院議員侯爵	西郷從德
貴族院議員	藤沼庄平
貴族院議員子爵	曾我祐邦
貴族院議員男爵	中村謙一

(各通)

衆議院議員	堤康次郎
同	山本厚三
同	星島二郎
同	今井健彦
從三位勳一等	小橋一太
同	堀切善次郎
同	正五位 太田哲三
勳三等	門野重九郎
正三位勳二等子爵	井上匡四郎
正三位勳二等	中川吉造
勳二等	根津嘉一郎
從三位勳二等	津島壽一
從四位勳三等	中川正左
正四位勳三等	池田宏
從四位勳三等	岡野昇
正四位勳四等男爵	大藏公望
勳四等	岩田宙造

同 安部 磯雄

堀内良平

正七位勳四等 増田次郎

小竹 茂

交通事業調整委員會委員被仰付

内閣書記官 澁江操一

法制局參事官 森山銳一

企畫院部長 原清

内務省地方局長 坂千秋

内務省土木局長 安藤狂四郎

内務省計畫局長 松村光磨

内務書記官 石井政一

同 中島清二

大藏省理財局長 大野龍太

陸軍工兵大佐 鎌田銓一

陸軍砲兵大佐 中西貞喜

司法省民事局長 大森洪太

(各通)

遞信省電氣局長 大和田悌二

鐵道省監督局長 鈴木清秀

鐵道省運輸局長 山田新十郎

鐵道省經理局長 池井啓次

鐵道書記官 山脇秀輔

同 堀木鎌三

同 鈴木正矣

交通事業調整委員會幹事被仰付

◎内務省土木試驗所談話會

昭和十三年八月中に開催したる土木試驗所談話會に於ける話題は次の通りである。

第七五回技術談話會話題

時日 昭和十三年八月十一日(木曜)午後三時より

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試驗所講堂

○中支(皇軍占據區)に於ける土木事業視察談

(約一時間) 青山士氏

以上

第一七六回技術談話會話題

時日 昭和十三年八月十二日(金曜)午後二時~四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 內務省土木試驗所講堂

1、北支及び滿洲に於ける土木事業視察談(約一時間)

內務技師 高橋嘉一郎氏

2、メキシコ國に於ける土木工事に就て(約一時間)

牧野雅樂之丞氏

以上

◎近刊圖書雜誌

○工事の友(第一〇輯四號)

高倉馨氏リ京城府内の道路占用料に關する側面的考察

○觀光聯盟情報(第二卷第七號)

○日本觀光聯盟第三回總會議事錄

○鐵道軌道經營資料(第二一卷七號)

○國立公園(七月號)

○東大陸(八月號)

○港灣(第一六卷八月號)

(第一一回總會號)

○セメント界彙報(第三六四號)

○土木學會誌(第二四卷八號)

○國際觀光(夏季號)

○科學知識(第一八卷八號)

○技術日本(七月號)

(高等試驗の改正に就て末弘博士の所論と吾々技術者)

○警察協會雜誌(八月號)

○道路研究會彙報(七月號)

(セメントコンクリート鋪裝の龜裂と其防止策を語る座

談會、第八回國際道路會議便り)

○都市問題(第二七卷第二號)

(都制案要綱批判特輯)

○自警(八月號)

○水利と土木(第一一卷第八號)

(安藤内務土木局長、大陸經營と土木事業)

○大阪商工會議所月報(第三七四號)

○内務厚生時報(第三一七號)

○土木建築工事畫報(八月號)

○汎交通(七月、八月號)

○乗合自動車(第一二卷七號)

(福田工學博士「電氣自動車の發達過程(一)」)

○都市と農村

都市計畫に關して造詣深き藤田宗光氏は曩年「都市計畫道路工學及國立公園」を著述し都市農村綜合的關係を圖らんとするもの爲めに好資料を提供せられたが這回更らに「都市と農村」とを再検討し有機的發展策を講じて都市と農村との調和を圖り以て國運の伸展に資する所あらしめんとて「都市と農村」を著述せられた、其の説述する所は一、將來の人口 二、人口と交通機關 三、自然と開發 四、醒めよ防空 五、我國の國立公園 六、都市と農村との批評 七、國土の計畫に進め 八、理想

を畫く都市 九、理想を畫く農村 一〇、日本國民も之だけは知れと言ふ頗る廣範圍に及んでゐる、斯界關係者の良資料たること多言を要せずして明かである。試みに農村道路の一節を見るに「農村道路は都市道路に比べて餘りにも等閑視され、其の存在たるや全く忘れられたかの感があつて此改良は全く考へられなかつたが農村問題が近時喧傳せられるやうになつてから識者の喚起を促すやうになつた、農村道路と都市道路とを比して見ると、交通問題上からも都市民の生活の上から見ても市民の道路に對する如く重要視されないのであらう然れ共農村道路は都市道路の如く美觀、鋪裝等の如きは全く無視されても何等差支ないが、地方都市と密接な關係にあるから農村自體は元より都市も亦都市自體を以て生存することの不可能な今日に於ては農村道路は極めて重大な使命を帯びるに至つたのである。」と (都市研究會發行)